

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号  
**実用新案登録第3199257号**  
**(U3199257)**

(45) 発行日 平成27年8月13日(2015.8.13)

(24) 登録日 平成27年7月22日(2015.7.22)

(51) Int.Cl. F 1  
**GO2C 3/02 (2006.01)** GO2C 3/02  
**GO2C 11/00 (2006.01)** GO2C 11/00

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 実願2015-2775 (U2015-2775)  
 (22) 出願日 平成27年6月2日(2015.6.2)

(73) 実用新案権者 515149225  
 大友 佑介  
 東京都目黒区大橋2丁目19番6号~829  
 (73) 実用新案権者 515149236  
 小澤 志保  
 東京都杉並区荻窪2丁目22番8号~101  
 (74) 代理人 100081260  
 弁理士 染川 利吉  
 (72) 考案者 大友 佑介  
 東京都目黒区大橋2丁目19番6号~829  
 (72) 考案者 小澤 志保  
 東京都杉並区荻窪2丁目22番8号~101

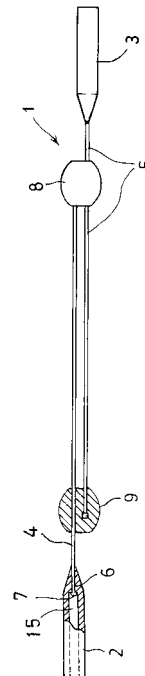
(54) 【考案の名称】 眼鏡保持具

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】軽量で頭部に装着した際に違和感がなく、烈しい運動や衝撃、振動等によっても眼鏡を確実に頭部に保持、固定でき、また長さの調整が容易で、さらに眼鏡の頭部への固定だけでなく、必要に応じて眼鏡を着用者の顎の下方や胸元に頸から吊り下げておくことができる眼鏡保持具を提供する。

【解決手段】耳掛けつる部の端部が圧入される穴15を備えた一对の弾性筒状部2,3と、基端が弾性筒状部の一端に埋め込まれ、先端に駒部材8,9が固着された一对のワイヤ部材4,5とを有し、ワイヤ部材はそれぞれ他方のワイヤ部材に固着された駒部材に所定の摩擦力をもってスライド可能に嵌挿され、ワイヤ部材の先端に固着された駒部材をそれぞれ他方のワイヤ部材に沿ってスライドさせることにより、一方の弾性筒状部2から他方の弾性筒状部3に至る長さを変え得るようにした。

【選択図】 図1



## 【実用新案登録請求の範囲】

## 【請求項 1】

眼鏡の耳掛けつる部に嵌合され、眼鏡着用者の頸部近傍の背頭部に掛け渡される眼鏡保持具であって、

前記耳掛けつる部の端部が圧入される穴を備えた一对の弾性筒状部と、

基端が前記弾性筒状部の一端に埋め込まれた一对のワイヤ部材と、

前記ワイヤ部材の先端に固着された一对の駒部材と、

を有し、前記ワイヤ部材はそれぞれ他方の前記ワイヤ部材に固着された前記駒部材に所定の摩擦力をもってスライド可能に嵌挿され、前記ワイヤ部材の先端に固着された前記駒部材をそれぞれ他方の前記ワイヤ部材に沿ってスライドさせることにより、一方の前記弾性筒状部から他方の前記弾性筒状部に至る長さを変え得るようにしたことを特徴とする眼鏡保持具。

10

## 【考案の詳細な説明】

## 【技術分野】

## 【0001】

本考案は、眼鏡の着用者が眼鏡を頭部に保持するのに使用される眼鏡保持具、特に、眼鏡の耳掛けフレーム部分を着用者の背頭部で固定するのに適した眼鏡固定具に関する。

## 【背景技術】

## 【0002】

一般に眼鏡は一对のレンズの外端から耳側へ向ってのびる硬質の細棒部材を備え、この細棒部材の先端部分が耳の付根に沿って折曲ないしわん曲し、この部分を頭部と耳の根元部との間に挟み込んで眼鏡を保持する。ここでは前記細棒部材を眼鏡の「耳掛けつる部」と称することとするが、この耳掛けつる部の先端（後端）は単に耳の付根裏側に挟み込むだけであるため、着用状態で頭部をはげしく動かしたりすると、眼鏡がずれたり、場合によっては外れ落ちたりすることがある。特に、はげしい運動をするスポーツ選手等では運動中に眼鏡がずれないように気を使わなければならない、万一外れ落ちたりすると危険な事故となる。

20

## 【0003】

このような事故をなくすために従来から眼鏡の一对の耳掛けつる部を頭部の背側できつく連結し、眼鏡のずれ落ちを防止するようにした眼鏡固定具が提案されている。

30

一方、人によっては必要な時のみ眼鏡を着用し、不要なときには眼鏡を外して卓上に置いたり、しまい込んだりすることがあり、外した眼鏡を置き忘れるなど紛失してしまうことがある。これを防止するため、眼鏡のつる部に長い紐状の部材を取り付け、この紐を頸の背側へ掛け渡し、外した眼鏡を頸の下側～胸元へ垂下させておくようにしたのも実際に存在している。

## 【先行技術文献】

## 【特許文献】

## 【0004】

【特許文献 1】特開 2014 - 81460 号公報

【特許文献 2】特開 2013 - 20102 号公報

40

【特許文献 3】実用新案登録第 3174825 号公報

【特許文献 4】実用新案登録第 3019709 号公報

## 【考案の概要】

## 【考案が解決しようとする課題】

## 【0005】

この種の眼鏡保持具は装着状態で人体に違和感がなく、かつ軽量で着脱も容易であることが求められる。さらに、眼鏡の種類、特に眼鏡のつる部の種々仕様、形状のものにも共通に適用でき、また、なるべく頭髪に隠れて外部から目立たないようなものが好まれる。また、例えばスポーツ用など頭部に確実に眼鏡を固定できると同時に、眼鏡の紛失、置き忘れ防止用として、外した眼鏡を頸から顔の顎部下方ないし胸部付近に垂下、保持させて

50

おくような機能も兼ねたものが要望される。

【0006】

上述のような種々の要望を満たすような眼鏡保持具は未だ存在していない。特許文献1に記載の眼鏡固定具は、頭部背側に接当する帯状固定部材が偏平巾広の部材であって、その両端部を眼鏡本体部から左右にのびた偏平なテンプル部に連結する構造のため、市販の種々の形態の眼鏡にそのまま適用することはできない。また、この構造の固定具は長さの調製が有段、例えば3段階の長さ調整であり、子供から大人まであらゆる人に適用できるように無段階に細かく調整できるようにはなっていない。

【0007】

特許文献2の眼鏡保持用治具は、鼻パッドの無い眼鏡を頭部の背面で眼鏡の両側のテンプル部をつなぐようにしたものであり、スポーツ用などはげしい運動や振動の際にはずれ落ちるおそれがある。

【0008】

特許文献3の眼鏡および眼鏡セットは眼鏡の前面側に偏った重量の過半量を頭部背側へかかるように重量配分して眼鏡が顔の前面下方へずれ下がるのを防止した構造であり、耳掛けフレーム即ち耳掛けつる部に連結される頭部背側の伸長部材を長さ調整して頭部に締め付けるといった構造ではない。

【0009】

さらに特許文献4の眼鏡保持紐は編み紐の伸縮性を利用して頭部背頸部に締め付けるものであり、紐自体に長さ調整機能を付加ものではなく、長期使用によって紐自体が劣化するおそれがある。なお、特許文献1～3のものは、いずれも眼鏡の頭部への固定のみを目的としたものであり、眼鏡の紛失や置き忘れ防止のための眼鏡吊下げの機能は有していない。

【0010】

本考案は、軽量で頭部に装着した際に違和感がなく、激しい運動や衝撃、振動等によっても眼鏡を確実に頭部に保持、固定できる眼鏡保持具を提供することを目的とする。

【0011】

本考案はまた、長さの調整が容易で、着用者の頭部のサイズや形状に簡単に合わせることができ、さらに各種仕様、形状の市販の眼鏡にもそのまま適用できる眼鏡保持具を提供することを目的とする。

【0012】

本考案はさらに、眼鏡の頭部への固定だけでなく、必要に応じて眼鏡を着用者の顎の下方や胸元に頸から吊り下げておくことができ、これによって眼鏡の置き忘れや紛失の防止を図った眼鏡保持具を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0013】

本考案によれば、眼鏡の耳掛けつる部に嵌合され、眼鏡着用者の頸部近傍の背頸部に掛け渡される眼鏡保持具であって、前記耳掛けつる部の端部が圧入される穴を備えた一对の弾性筒状部と、基端が前記弾性筒状部の一端に埋め込まれた一对のワイヤ部材と、前記ワイヤ部材の先端に固着された一对の駒部材とを有し、前記ワイヤ部材はそれぞれ他方の前記ワイヤ部材に固着された前記駒部材に所定の摩擦力をもってスライド可能に嵌挿され、前記ワイヤ部材の先端に固着された前記駒部材をそれぞれ他方の前記ワイヤ部材に沿ってスライドさせることにより、一方の前記弾性筒状部から他方の前記弾性筒状部に至る長さを変え得るようにした眼鏡保持具が提供される。

【考案の効果】

【0014】

本考案に係る眼鏡保持具は、軽量でかつ簡単に既存の眼鏡に装着出来、スポーツ動作時など強い振動や衝撃が頭部にかかっても眼鏡のずれや脱落を防止できる。また、全体の長さの調整が簡単にできるため、例えば頭髪を含めた頭部のサイズに容易に合わせる事ができる。

10

20

30

40

50

## 【 0 0 1 5 】

さらに本考案では眼鏡の固定だけでなく、眼鏡の非使用時にも眼鏡を着用者の顎下や胸元に吊り下げておくことができ、たとえば卓上に置いた眼鏡の置き忘れや紛失を防止できる。

## 【 図面の簡単な説明 】

## 【 0 0 1 6 】

【 図 1 】本考案の実施例に係る眼鏡保持具の一部裁断した平面図である。

【 図 2 】図 1 の状態から長さを調整して全体の長さを長くした場合の眼鏡保持具の平面図である。

【 図 3 】本考案の実施例で全体の長さを調整するときの途中の状態を示した眼鏡保持具の平面図である。

10

【 図 4 】本考案の実施例に係る眼鏡保持具を用いて眼鏡を着用者の頸部近傍の頭部に固定した状態を示した図である。

## 【 考案を実施するための形態 】

## 【 0 0 1 7 】

次に、本考案を図面を参照しつつ実施例について説明する。

図 1 , 図 2 を参照すれば、実施例の眼鏡保持具 1 は全体としては眼鏡の耳掛ける部に嵌合される両端部を細紐状の部材で連結した長尺構造を成し、その両端に中空のシリコンゴム等の弾性筒状部 2 , 3 を有している。弾性筒状部 2 , 3 の外端は中空状態に開放されているが、軸方向内方の端部は外形が円錐状に先細となっており、この円錐状端部に後述するワイヤ部材 4 , 5 の一端が埋設固定されている。具体的には、円錐状の端部にワイヤ部材 5 の基端がきつく挿入される小径孔 6 が形成され、また、ワイヤ部材 5 の埋込み端部には、小さな丸玉状の膨らみ部 7 が設けられ、この膨らみ部 7 によってワイヤ部材 5 が弾性筒状部 3 から他端側（先端側）へ抜け出ないようになっている。他方の弾性筒状部 2 およびワイヤ部材 4 についても同様である。この実施例で各ワイヤ部材 4 , 5 は金属製の線材、例えばステンレス製線材の外周に樹脂製の被覆、具体的には P V C 皮膜が施され、かつ、全長にわたって表面が僅かに螺旋状あるいは極小の連続凹凸形状を呈するように構成されている。

20

## 【 0 0 1 8 】

弾性筒状部 2 , 3 から伸長したワイヤ部材 4 , 5 の先端には硬質ゴムあるいは樹脂製の偏平な駒部材 8 , 9 が固着されている。このように、この眼鏡保持具 1 は左右一对の弾性筒状部 2 , 3 と、左右一对のワイヤ部材 4 , 5 と、各ワイヤ部材 4 , 5 の先端に固着された左右一对の駒部材 8 , 9 とを有して構成されるが、一方のワイヤ部材 4 先端の駒部材 8 には他方のワイヤ部材 5 が所定の摩擦力をもってスライドするように嵌挿されている。

30

## 【 0 0 1 9 】

同様に前記他方のワイヤ部材 5 の先端の駒部材 9 には前記一方のワイヤ部材 4 が所定の摩擦力をもってスライドするように嵌挿されている。これらのワイヤ部材 4 , 5 と駒部材 8 , 9 との間の摩擦力は、両端の弾性筒状部 2 , 3 を両手でつまんで左右に引張っても容易にワイヤ部材 4 , 5 が駒部材 9 , 8 に対してスライドしない摩擦力を有するとともに、一方の手で一方の弾性筒状部 2 または 3 をつまみ、他方の手でこの弾性筒状部 2 , 3 に隣接した駒部材 9 または 8 をつまんで左右に引張ることにより駒部材 9 , 8 がそれぞれワイヤ部材 4 , 5 上を或る抵抗力をもちながらスライドするような摩擦力となっている。

40

## 【 0 0 2 0 】

図 3 は眼鏡保持具 1 の長さを調整する途中の状態を示した図であって、弾性筒状部 2 に隣接した一方の駒部材 9 をワイヤ部材 4 に対して途中までスライドさせた状態である。この後、他方の弾性筒状部 3 とこれに隣接した側の駒部材 8 とを両手でつまんでそれぞれ右および左に引張ることにより、一对の弾性筒状部 2 , 3 間の長さ、即ち眼鏡保持具 1 の全長を長くすることができる。眼鏡保持具 1 の長さを短くする場合は、両側の駒部材 8 , 9 を両手でつまんで同時に右および左に強く引張ることにより、各駒部材 8 , 9 がワイヤ部材 5 , 4 上をすべって全長が短くなる。このようにして眼鏡保持具 1 の長さ調整が無段階

50

になされ得る。

【0021】

図4は本考案に係る眼鏡保持具1を用いて眼鏡10を眼鏡着用者の頸部近傍の頭部11に固定した状態を示した図である。眼鏡10の耳掛ける部12の先端を眼鏡保持具1の弾性筒状部2,3の穴15(図1)に深く嵌挿ないし圧入し、両弾性筒状部2,3間のワイヤ部材4,5を頸部~頭部背側13へ掛け渡すとともに、ワイヤ部材4,5の長さを調整してワイヤ部材4,5を緊密に頭部11に接当させることにより、眼鏡10は着用者の頭部11に固定され、はげしい動きによる振動や衝撃に対しても眼鏡10がずれたり、外れ落ちたりするのが防止される。眼鏡10を頭部11から外すときは、前述したように駒部材8,9を操作して眼鏡保持具1の全長を長くして固定を解き、頭部11から眼鏡10を取り外す。

10

【0022】

以上は眼鏡を頭部に固定する場合であるが、本考案の眼鏡保持具1は眼鏡の置き忘れ防止、あるいは紛失防止用としても使用可能である。この場合は、眼鏡の耳掛ける部に保持具1の弾性筒状部2,3を嵌挿させた状態で駒部材8,9を操作して眼鏡保持具1の全長を最大近くまで伸長させ、ワイヤ部材4,5を頭部の背側あるいは頸部に掛け渡し、眼鏡本体部を着用者の頸部の下方、胸元へ垂下させることにより、眼鏡の非使用時に眼鏡を着用者に対して保持状態にすることができ、これによって眼鏡の置き忘れや紛失を防止できる。

【0023】

20

以上説明したように本考案に係る保持具の弾性筒状部は、変形可能なゴム様の弾性体で形成されているので、市販の眼鏡の耳掛ける部の形状が多少異なるものに対しても十分な固着力をもって耳掛ける部を弾性筒状部に嵌合させることができる。眼鏡の耳掛ける部は、ほぼ平行に離間した2本のワイヤ部で頭部背側の頸部に拘束されるので、衝撃や振動を受けても眼鏡がずれたり、外れ落ちたりすることはない。眼鏡保持具の各部は特別大きな重量をもつ部材ではなく、全体として極めて軽量であり、装着しているときの違和感もなく、また全体として細いワイヤ部材で頭部下側を固定する構造のため、外部に目立つこともない。因みに樹脂被覆したワイヤ部の線径は1.3mm程度である。取付け、取外しの操作も簡単であり、全体の長さ調整も容易である。

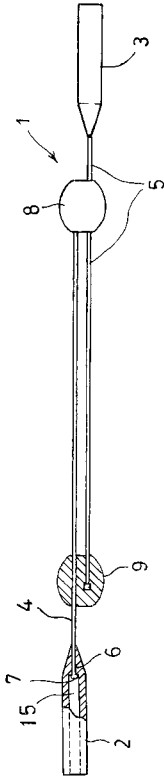
【符号の説明】

30

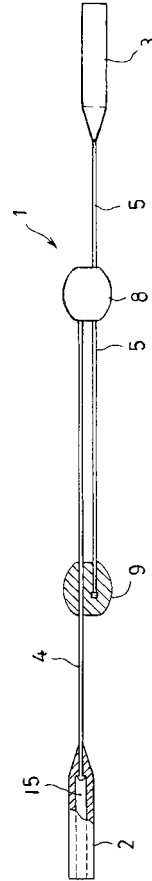
【0024】

- 1 眼鏡保持具
- 2, 3 弾性筒状部
- 4, 5 ワイヤ部材
- 6 小径孔
- 7 ワイヤ部材基端の膨らみ部
- 8, 9 駒部材
- 10 眼鏡
- 12 耳掛ける部

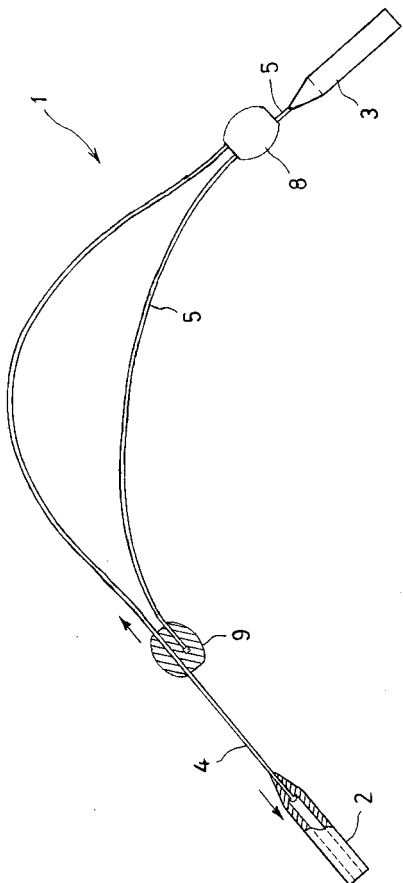
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【図 4】

